【事業実績】ちくごアートリレーション 2022 ちくごアート企画室

（1）ちくごアート企画室

柳健司、KITA（北澤潤、アナスタシア・ユアニタ、シティ・サラ・ライハナ、ムニフ・ラフィ・ズディ）、酒井咲帆＋いふくまち・ごしょがだに保育園の 3 組を招聘し、次年度の『かえる場所』(2023 年度)展開催に向けてのリサーチ及びプランニングを市民に開くための展覧会を開催。2022 年 12 月 24 日（土）～2023 年 1 月 22 日（日）＠九州芸文館大交流室 入場者数：1,019 名　Web サイト：https://geibun-art.studio.site/event_2022_art_relation

①グループ展

会場風景

KITA《Un/known》

柳健司《近くの遠くの近く》

酒井咲帆＋いふくまち・ごしょがだに保育園《子どもたちから始まる物語》

②企画室

学芸員やアートサポーターなどが会場に常駐し、来場者の興味・関心や九州芸文館・筑後地域について話を聞いた。

鑑賞 P を通して小学生とサポーターの交流

サポーター・学芸員によるミーティング

ラジオ・インタビュー収録

ゲストトーク 3 事例紹介＋オープンミーティング

■来場者の声 ●日本に来る外国人労働者の多くは地域住民との交流の機会が少ないことを残念に思っている人が多いと聞く（まちづくりに携わる女性）●九州芸文館は校区内なのでその周辺で遊ぶことが多い（小 5、女子 4 人組）●私たちが運営する保育園でも様々な取り組みを試みているので、新たなご縁が出来てとっても嬉しく思う（近隣で保育園を運営する女性）●筑後市で生まれて育ち、住みやすくていいところだと感じている（小 6、男子）●この企画は過去の展示も観ていて会場での鑑賞を通してなぜこのテーマ設定なのか、この作家がセレクトされているのかを、自分なりに考えて観ていくのが楽しい（福岡市内在住・女性）●八女でフライヤーを見かけて「かえる場所」との言葉にひかれて来た。古民家再生の仕事をしていることもあって自分にとってはとても気になる言葉だった。この地域にも空き家はたくさんあるが、家主亡き後は残された家族が手放すことも難しく手付かずとなって困っているケースがある（みやま市で古民家再生と介護の仕事に携わる女性）●現在、仏壇を作る仕事に携わっていることもあり、「かえる場所」と聞いて、死後の世界での人々の心の拠り所（宗教や神仏）について考えが巡り、死後や、生きている人間の精神的なかえる場所（ところ）について考えるのは面白い（八女市在住の男性）●開設した訪問看護ステーションで今後、精神科や障がい児者の対応も行いたいと考えている。『かえる場所』展で私たちも何か関わることができないかと考えている（在宅ホスピス、訪問看護に携わる女性）●アートを通じて人と交流する場があるのはいいことだと感じる（近隣に住む男性）

③関連企画

■参加アーティストによるトーク・ワークショップなどを実施

来場者との対話の糸口として、KITA ワークショップ 1「Un/known くじびき」・2「Un/known をアップデートする」、柳健司「あなたの終のすみかはどこですか」、酒井咲帆＋いふくまち・ごしょがだに保育園「Let’s talk」、アーティストトーク（参加者数：37 名）を実施。土日祝、会期中随時

KITA ワークショップ 1「Un/known くじびき」

柳健司「あなたの終のすみかはどこですか」

酒井咲帆＋いふくまち・ごしょがだに保育園「Let's talk」

■企画室ゲストトーク

ゲスト：宮城潤（那覇市若狭公民館館長）上田假奈代（詩人／ NPO法人こえとことばとこころの部屋代表理事）山下弘子（坂本善三美術館学芸員）清水チナツ（インディペンデント・キュレーター／ PUMPQUAKES）
2023年1月7日（土）・8日（日）・15日（日）・22日（日） ゲストはトーク3のみ対面、その他はオンライン登壇　参加者数： 10名（7日）、12名（8日）、15名（15日）、14名（22日）

（2）アートサポーターの育成プログラム

①高大生・一般を対象としたアートサポーター育成講座及びミーティング実施

2022年11月13日(日)・20日(日)・12月4日（日）・10日（土）・17日（土）、現場実践期間は12月24日（土）～2023年1月22日（日）参加者数：13名 @福岡県立美術館・九州芸文館・オンラインなど

第1回：サポーター（経験者）による説明　第2回：参加アーティストを知る　第5回：会場下見　　サポーターミーティング

■参加者の声

〈受講後の感想〉○同じ大学生のメンバーや仕事をされている大人たちと時間を共有し、案を出し合う場はとても楽しいものだった ○美術館の今後のありかた、地域との繋がりを考える機会は今まであまりなかったので新しい視点、考え方の発見があった ○3組のアーティストの発想の豊かさと行動力に驚いた。純粋にものすごくパワーをもった方々だと感じた。作品や芸術と向き合う姿勢はもちろん、人間的にも本当に尊敬できる3組に出会えて参加してよかったなと心から思った ○皆の熱量や考えていることを肌で案じることができ、やはりこのご時世でも実際に顔を合わせて話すことは重要だなと感じた。サポーターそれぞれの得意分野やアイデアをたくさん聞くことができて刺激を受けた ○展示を作りあげていく現場を見られたのはとても貴重な経験だった ◎ミーティングでは新規サポーターから話を聞き出しアドバイスをするという内容だったがこれが結構難しく、いい経験となった。**〈実践後の感想〉**○主体的に動くことの重要性を再確認でき、大学の講義だけでは身につけることのできない実践を学べる有意義な経験となった ○「ぶっつけ本番」は通用しないことを学べたことが一番大きかった。企画実行の前段階にはかけられるべき時間や労力があり、それらなしでは企画が表に出ることはできないのだと知った。舞台裏を間近に見ることができ、一筋縄ではいかない苦労や準備の大変さをわずかながら実感できた ○企画のあるべき姿から学び、芸術のあり方について深く考えることができた ○アーティストや他サポーターと話し合いながら活動できる貴重な機会をもらい、かえる場所という展示について深く考えることで自分自身も成長できた ○ワークシート作成では作品について知れば知るほど、鑑賞者を導く問いかけとして表すことに苦労した。自分の中で作品をしっかり落とし込むことの大切さを実感し、そのためには実際に作品を観ながら他のサポーターや学芸員の方と対話することが不可欠だと思った ◎過去の失敗や成功体験を活かして、新規サポーターが提案したプログラムの実践のためにアドバイスなどを行なったが、人間関係が構築されていないメンバー間で活動を進めることは容易ではなく、プログラムを成功に導くことの難しさを学ぶ事が出来た。◎一日限定で行なったギャラリートークで多くの人と話すことができ、とてもいい経験になった。これからの課題もたくさん生まれたので今後学芸員を目指すうえでずっと考えていきたい。(○新規サポーター　◎サポーター経験者)

②アートサポーターによる鑑賞プログラム（ちくごアート企画室での実践）

かえる場所トーク　2023年1月21日（土）@九州芸文館大交流室、教室工房5　参加者数：15名、対話型ギャラリートーク　2023年1月9日（月祝）他・会期中に数回実施、ワークシート、感想シート、アートサポーターによるSNS発信 会期中随時　Instagram：@caf_supporters　Twitter：@caf2021staff

かえる場所トーク　　対話型ギャラリートーク　　感想シート（来場者制作の様子）　ワークシート　　SNS発信

■感想シートの声

●かえる場所 みんなそれぞれ想いは異なる。こんな風に考える機会って大切だと想った ●毎年観覧しており今年も楽しくて“ハッ”とするような発見があった。生まれ育った筑後でアートが楽しめるのは本当にステキ ●子ども達の姿を職員・保護者・地域住民の方と一緒になって育ちを見守る仲間を増やしていきたいと思った。

（3）その他

■アートサポーターによるアーティストインタビュー（佐賀大学連携企画）2022年12月24日（土）
■あなたのかえる場所とは（佐賀大学ゲスト講義）2023年1月18日（水）@佐賀大学芸術地域デザイン学部1号館A101室　対象：佐賀大学経済学部・教育学部・農学部・理工学部生 40名

■大学生の声

●このような形の展覧会もあるのだと新鮮に感じた ●作品だけがアートでは無いということを実感 ●会場が常に動いているというのが面白い ●学芸員の方などが企画している姿も展示作品として見なしたり、1年の準備期間が設けられていることが斬新 ●展覧会や学芸員の在り方や意義などについての捉え方が変わった ●自分にはない表現力や価値観、考え方などに触れることは自分の視野が幾分か広がる気がしてとても楽しく感じた ●「かえる場所」について、初めにこの文字を見た時、「帰る」「還る」「孵る」「変える」「代える」など、色んな意味が浮かんだ ●解釈が多様にできる作品が多く、受け取る人によって感じ方が全く異なってくるのも面白いと思う ●アーティストさんたちの解釈の多様さに驚いた ●それぞれの作品に様々な社会的役割を見出すことができ、親しみやすくそれぞれ考える行為もできるところが良いなと思った ●地域の話題や課題を元に地域の人々と共に考えるというのがものすごく斬新な取り組みだと思った ●行政に任せるのではなく自分たちの力で地域をより良くしていくべきだと感じた